

地震調査研究推進本部政策委員会 第 8 1 回調査観測計画部会議事要旨

1. 日時 平成 3 0 年 2 月 1 3 日 (火) 1 5 時 0 0 分 ~ 1 6 時 0 0 分
2. 場所 文部科学省 1 5 F 特別会議室
東京都千代田区霞が関 3 - 2 - 2
3. 議題
 - (1) 地震に関する総合的な調査観測計画における調査対象活断層について
 - (2) 富士川河口断層帯重点的調査観測における今後の見通しについて
 - (3) 新総合基本施策レビューに関する小委員会における検討状況について
 - (4) その他
4. 配付資料
 - 資料 計 8 1 - (1) 地震調査研究推進本部政策委員会調査観測計画部会構成員
 - 資料 計 8 1 - (2) 地震に関する総合的な調査観測計画における調査対象活断層について
 - 資料 計 8 1 - (3) 地震に関する総合的な調査観測計画における調査対象活断層について (一部改訂) (案)
 - 資料 計 8 1 - (4) 富士川河口断層帯重点的調査観測における今後の見通しについて
 - 資料 計 8 1 - (5) 新総合基本施策レビュー小委員会 報告書 (案) (平成 3 0 年 1 月 2 2 日時点版)
 - 参考 計 8 1 - (1) 地震調査研究推進本部政策委員会第 8 0 回調査観測計画部会議事要旨
5. 出席者
(調査観測計画部会長)
平原 和朗 国立大学法人京都大学大学院理学研究科教授

(調査観測計画部会委員)
青井 真 国立研究開発法人防災科学技術研究所
地震津波火山ネットワークセンター長
岩田 知孝 国立大学法人京都大学防災研究所教授
岡村 行信 国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
活断層・火山研究部門首席研究員
加藤 幸弘 海上保安庁海洋情報部技術・国際課長
桑原 保人 国立研究開発法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター活断層・火山研究部門長
瀨藤 一起 国立大学法人東京大学地震研究所教授
小平 秀一 国立研究開発法人海洋研究開発機構
地震津波海域観測研究開発センター研究開発センター長
佐竹 健治 国立大学法人東京大学地震研究所教授
篠原 雅尚 国立大学法人東京大学地震研究所教授
高橋 浩晃 国立大学法人北海道大学大学院理学研究院教授
田所 敬一 国立大学法人名古屋大学大学院環境学研究科准教授
辻 宏道 国土地理院測地観測センター長

尾崎 友亮 気象庁地震火山部管理課地震情報企画官
(野村 竜一 気象庁地震火山部管理課長 代理)
長谷川 昭 国立大学法人東北大学名誉教授
久田 嘉章 工学院大学建築学部教授
平田 直 国立大学法人東京大学地震研究所教授

(事務局)

大山 真未 研究開発局審議官
竹内 英 研究開発局地震・防災研究課課長
松室 寛治 研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長
中村 雅基 研究開発局地震・防災研究課地震調査管理官
和田 弘人 研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官
根津 純也 研究開発局地震・防災研究課課長補佐
三浦 哲 文部科学省科学官
鶴岡 弘 文部科学省学術調査官

6. 議事概要

(1) 地震に関する総合的な調査観測計画における調査対象活断層について

○資料 計 81-(2)、資料 計 81-(3)に基づき、地震に関する総合的な調査観測計画における調査対象活断層について、事務局より説明。主な意見は以下の通り。

平原部会長：どうもありがとうございました。事務局の案について、ご質問やご意見等がありましたら、お願いいたします。

桑原委員：この活断層のリストですが、最近では、例えば電力会社などで調査して、このリストにないもので長さがある程度ある、それなりに活断層じゃないか、というようなものも最近出てきていて、そういうものの扱いというのは、どんなふうに考えられているか。

和田企画官：基本的にこのリストに入るものとしては、評価を行った後、それが活断層であると地震調査委員会が認定・評価をした活断層だけをリストとしていますので、その評価の外に漏れてしまうと、これに入ってこないということになります。

桑原委員：評価対象にするときに、何らかの文献などの中から選ばれると思いますが、その評価対象には、例えば最近の調査などが入っていない場合はどうなるのか。

和田企画官：基本的に地域評価を行う際に、その地域の中で、それ以前に既に主要活断層帯評価を行っておりますけれども、その評価時点から現在地域評価を行うまでの間、例えば5年とか10年とかですが、その間にどういう調査が行われたかというものは一応網羅的には情報収集しており、その中には当然論文だけではなく、例えば電力会社などがオープンにしている調査結果であれば、そういうものも収集した上で、それを評価するかどうか、ということにはなっています。

桑原委員：たまたまですが、四国の宇和海のところに22キロぐらいの四国電力が調査し

た断層があつて、ちょっと見てみたら結構立派な断層だなど思っているのですが、それが全然話題に入っていなかった。

和田企画官：それは、ある意味海域に入っているものですか。

桑原委員：見ると沿岸まで接していて、沿岸からちょうど22キロぐらいです。海岸線に接するぐらいまであつて、というようなのがあつたので、どうなつたのかなと思っています。

和田企画官：すいません。ちょっと細部は覚えてはいないのですが、基本的に入れてはいるのですが、もしかしたら海域だけのそれは独立した活断層のようなイメージということなのですか。

桑原委員：微妙だな、という感じです。

和田企画官：もしかしたら、今のところの地域評価の中では、明らかに陸から連続して海域まで延びているというものは当然評価に入るのですが、海域の中だけというふうになると、その評価の対象外になり得るということがある、ということだけを申し上げておきます。

桑原委員：一応見られたのなら問題ないと思う。ちょっと後で、その断層について確認をお願いします。

和田企画官：情報を頂ければ。

平原部会長：ほかにございますか。

佐竹委員：資料 計81- (3) の方ですが、一番最後のページの重点的調査観測の対象とした活断層帯の下から2番目に別府一万年山断層帯が入っていますが、これは間違いですか。

和田企画官：これは、ある意味既に調査を行つてしまつているので入れています。まだ調査を行つていないものと、既にその名前で調査を行つているものがあるので、厳密に言うと、この名称で重点的調査を行つているので、それを変えてしまうと、混乱が生じると思つたので、そのままにしています。

佐竹委員：もう終わったのですよね。

和田企画官：昨年度までで終わつて、それを四国地域の評価の中に取り入れているということなんです。

平原部会長：終わった断層は、そのまま名前は変えていないということですか。

和田企画官：そうです。

平原部会長：重点的調査観測というのは、もう終わったものと終わっていないものは、分けられないのですか。

和田企画官：分かりやすく、なのであれば、分けられると思います。

平原部会長：もう大分終わっているのですよね。どれが残っているのですか。富士川断層とかですか。

和田企画官：終わっていないものについてですが、屏風山、恵那山、猿投山がまだ終わっていないということで、あとは奈良盆地東縁断層帯、三浦半島断層群。あとは、この後ご説明しますが、現在実施し始めているのが富士川河口断層帯。あとは、森本・富樫断層帯が、まだこのリストの中では着手していないという状況になっています。

平原部会長：どうもありがとうございます。ほかにございませんか。今回、四国の中央構造線をやって、ただ重点的調査観測の対象としては、なかったということですね。

岡村委員：リストは割と機械的に作れるものだと思いますが、この短い活断層のリストというのは、これを作られた上で具体的にどのようにされるのか。調査をされる予定があるのかどうか、お聞きしたい。

和田企画官：現在、文部科学省の方の事業、活断層に関わる調査観測事業ですけれども、重点的調査のものと、ここにあるいわゆる補完調査、沿岸海域のものについては事業として毎年数断層選んで調査が行われています。しかし、今言われたd)の短いものについては、来年度以降の予算的な措置というものが現在見込まれていません。

根津補佐：継続の調査も幾つかございますので、恐らく新しく着手するのはちょっと難しいであろうと事務局としては考えています。2年後以降どうするかというのは、今まさにこれからの議題にもなっておりますが、レビュー小委員会又は次に立ち上げようとしている次期の総合基本施策の策定で、活断層も含めたそういう陸域の調査というものをどうしていくかという議論を踏まえて検討することになると思っております。現時点で事務局としては、こういうふうになっていますという方針は、ある意味決まっていないというか、今後のそういう総合基本施策の議論などを踏まえて予算的な措置をどうしていくかというのは、我々としても考えているということになるろうか、と思っております。

そういう意味で、いつまでに何本きっちりやりますみたいなことを、こういう場でき

ちんと申し上げられるような状況にはないということでございます。

平原部会長：よろしいですか。ほかにごございますか。どうもありがとうございました。

(2) 富士川河口断層帯重点的調査観測における今後の見通しについて

○資料 計 81-(4) に基づき、事務局より説明。主な意見は、以下の通り。

平原部会長：どうもありがとうございました。ただいまの報告について、ご質問やご意見がありましたら、お願いします。富士川河口断層帯におけるこれからの調査観測計画ですね。

小平委員：湾を横断する形で海域調査をやることになっていると理解したのですが、私達もここで調査をやろうとしているときに漁業調整が非常に難航するところですが、その辺の調整は既に済んでいるのか、見通しがあるのか、何か情報はありますか。

和田企画官：この地震調査委員会第235回長期評価部会で説明した段階では、非常に難しい状況になっているというところだけは聞いているのですが、それが最終的にどうなったかというところは、まだ分らないです。

小平委員：そうすると、現実問題としては、やれない場合もあると承知の上ということになるのですか。

和田企画官：説明の中では、例えばこの13ページ目のところにあるように、最終的にできる範囲としてこの1本を選んだというふうに、漁業調整の結果この範囲まで絞ったという説明の内容でした。もともとは、もう少し南でも何本かやるという計画を立てていたようですが、それは難しいという説明があったと記憶しています。

小平委員：漁業調整はついているということですね。

和田企画官：はい。

平原部会長：ほかにごございますか。

久田委員：10ページで、富士川河口断層帯の活動の評価のところの右側の浮島ヶ原の評価が、かなりスケールが違う。この右側というのは、地震が起こったという意味ですか。別に富士川河口断層帯とか関係しているわけじゃなくて、歴史地震の活動という意味なのですか。この活動というのは、何の活動ですか。

和田企画官：ちょっと3ページ目の図を見ていただくと分かるかと思うのですが、浮島ヶ原というところが領域の東側にあるのですが、そこで沈水のような、層相解析で地層

が陸域から海水に一旦戻るようなイベントを読んだ上で、そこで繰り返し上下変動のイベントがあったと読んでいるということです。ただ、それは実は長期評価の議論の中においては、富士川河口断層帯、ここの図でいう紫色で示した、つまり実際に断層が通っているところのイベントではないので、実際にやはり紫の断層が通っているところで地質情報からの履歴を取って調べるべきだ、というふうな2つの考えが併存しているのですが、それが先ほどのピンクの方というものがそちらのいわば紫色の方で取ったデータから見たもので、浮島ヶ原のところに必ずしも断層があるわけではなくて、断層の変化からイベントを読み取ったというふうに聞いています。

平原部会長：長期評価の委員会から何か補足ありますか？

佐竹委員：いや、特にありませんが。この間も私は同じ質問をしたのですが、浮島ヶ原の方は特に考えていないと、活断層本体を考えているということでした。

平原部会長：東海地震がどこまでいったかというような話と結構結び付く話だと昔は言われていたのですが、最近はどうなのですか。まあ、浮島ヶ原は、まだ議論があるところですか。

何かほかにコメントはありますか。よろしいでしょうか。

(3) 新総合基本施策レビューに関する小委員会における検討状況について

○資料 計 80-(5) に基づき、事務局より説明。主な意見は以下の通り。

平原部会長：どうもありがとうございました。今進行中、もうそろそろ終わりに掛かっていますけれども、新総合基本施策のレビューに関する小委員会という検討状況について報告いただきました。短い説明でしたので、ちょっと分かりにくいかもしれませんが、ご質問などありましたらお願いします。長谷川委員、何か追加はいいですか。

長谷川委員：特にありません。

平原部会長：よろしいでしょうか。では、またご意見等がありましたら、お願いいたします。

平原部会長：それでは、本日の調査観測計画部会はこれで終了します。どうもありがとうございました。

— 了 —